

蝦夷地實記

洋学文庫

文庫8

C 201





熱振夷地内要害を倭に付託せしむる事付

近後重藏

イシカワ川、飯田郡東野村中、矢張り大河を右に水は
凡百里程、官道より平地を経て、村中を経て、
不毛の地、以上近き人々、稻魚等ありて、東南の遠山
遥かお圍ふ平地の方長を絶ち、程を量りて、方百里余と云
へば、ぬき上右折流ありて、方々ユウヅツ川と連なり、下カサ川
接し、西をテシロ川、并コシケ川フルモツへ川と通し、東はヤ
ソウヤミ内モニへ川多し、達し四方通路結ぶ宜敷
實におよそ中必要極む地なる矣、別路より大槪



おぬそ上タカシマと鮑を若松月末より一月へあけ
る月迄も余合船一艘へ凡拾箱の辛味三船も入は
り義とタタリナイよりイニカリ近なるレブツカと中
取とよ鮑永船三百ヶ所と立獲ぬといふ教れ成る余
人とは市非常の産もの方であらうイニカリナニ場所
夷人も早と鮑を同所集りいふをいふタカシ山中
教信なるや近山良找多く野生し麻をこく
長く夷人西東将を仰り糧食を信は地一な衛所と
おぬ鮑漁り者捕手は佐々木とあり勿く秘人入漆の
下
是は同所たるに之をいふは法鮑を此地へ合取てふ
合船一艘を合取てあるなり保はぬと年松お改有るなるに

おぬそ 且て此船を洞艇系り我を原高をもたぬ廿二艘
を團はば人教の首は移し同所へ移年信頼るタカシ
後信おぬの商賣もあはる先の高産し便利を謀り
タカシヲタリナイの奥二里も合船地と陳屋れうの
方にも有るやサツボロの西テゴ山の奥バインカリ川口
凡二日航ウスアブタより凡二日航是も此地に四方出張
ゆきて官舎は一神地を越え移り中の中を陳
屋地と知れえ三同所へおぬ人をもはるなるに
ゆき右に所へゆくとくふは作付の方とをな
右方ユウハ山の奥ありおぬ人へくはるなるに

中夜をとりしり

一 周地経界し市穀物出来と道海開ケいふは二
む先勢ともなる穀物も稲米も不なるは者得難
穀とある地内戸口も何方とも急な出来
中稲米も中海風をふくむ路も不なるは是道地
道海開ケるは海已通り仕るは出入海に泊るは
時外無き長運におぬるは者得難
は義事未考索仕は度いしかり并テシラ川筋こそと
と水れは別紙絵面と通申地は道海開ケるは海
よりいふ分と迫きぬるは別紙絵面と出東

は道海開ケるは海已通り仕るは出入海に泊るは
時外無き長運におぬるは者得難
は義事未考索仕は度いしかり并テシラ川筋こそと
と水れは別紙絵面と通申地は道海開ケるは海
よりいふ分と迫きぬるは別紙絵面と出東
は道海開ケるは海已通り仕るは出入海に泊るは
時外無き長運におぬるは者得難
は義事未考索仕は度いしかり并テシラ川筋こそと
と水れは別紙絵面と通申地は道海開ケるは海
よりいふ分と迫きぬるは別紙絵面と出東
は道海開ケるは海已通り仕るは出入海に泊るは
時外無き長運におぬるは者得難
は義事未考索仕は度いしかり并テシラ川筋こそと
と水れは別紙絵面と通申地は道海開ケるは海
よりいふ分と迫きぬるは別紙絵面と出東

愚意申上の書付

高橋三平

高橋三平

去上々年以前寛政十一年東柳賣地七ヶ年以前堀江柳賣
場所之賃與人共以差止所割成以入司成十ヶ年限中
去上々年五万ある以下ヶ金有し山積右山子樹自場如し
しと山積人右借柳賣人分抱交易其斗七ヶ年偏山道
切用渡場と云ふ所し其板藏賣法違立証又七場の茶
酒造區境推其作本池板賣違も庄人等相減の場如も
有る相つとも入費も右等し又去上々年東柳賣地七
上地所賣川堀賣賣度羽太安賣賣度新紀伊銘賣賣
作自り所入用向し多し以動定賣り打合熟一證し
中上ヶ堀江柳賣地も此度地も去上々三月以前動定賣り打合

五位收納

迎

有之同安縣事所由一時未刻之旨も附屬実事有
 之百歳も治定仕中より後も無所在に熟しも長
 滞記も成りも中より後も且東帳書地も義也
 不抄事も捌けりも之拂も有之も官に好く場も以
 此處も至りも好くも此處も之得も此處も合ふ
 元之役人此處も至りも大場也也書局多し中も
 左之りも此處も此處も此處も合ふ之も内も此處も
 不毛隣場也人此處も此處も有之も官に好く
 局より此處も有之も場也也此處も内も此處も

去人死拂之持其意其能去同人心也者不可不恤也
仕人者若此其傷而不恤一方之言極原夫吏前因
此而一立酒仕官向後自當有所下以付于親
拒之以法示止乃下吏既入通辭懷甘得中付
為西斗以歸其內實有法原傷如之安高本費減產
物之多可成如之多何舍如永歸之飲也奧地亦固又
博取之乃盡酒復并役年之下加什傷而不仕之
拂焉之流也帳表余抱方未憐也故持傷而不恤下
秋之奧地也陽令若傷而不恤所仕公物沒文帳矣
潤交易後一方其外也拂也此一年之今錄

江文休采飯と持来いゝゝの故に文死人多しと云ふ
 以故そふゝ山平傳も宣ふ教もお掛一場所と云ふ人
 此を山平お精と云ふと隣場と云ふ内裏之様とお云ふ
 なるもお父より上お年と云ふは故に格別之流お減の方
 いゝの故に文死人多しと云ふは故に格別之流お減の方
 又聖事と云ふはと云ふは故に格別之流お減の方
 故に格別之流お減の方と云ふは故に格別之流お減の方
 和名所不盡とお云ふ向ふも同とお云ふと云ふ及云云
 ともお成通且自分持場所と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 之を傳へて云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

手かきしるゝりい受もお身にお大之来せぬ精より
 親の官一概と悪處とも都て捨れ其弊起りゆ故も有之
 の旨持て勅考はし不場如所行人多く是を往追てこす
 無く相あひ若館に寄きて手教もおろす中にも留置迄
 之の時を以て少人減へぬと申上候ふなり執事も
 お成りて早速に所令等ひの事なる程物に候共
 格更にお増へしめ候へば是も有之同安事候なり
 一 場取寄入合々漢事も有之支死人番人講場所と
 熟和してゐる家々問ひ有之ふたさ産物言ふ多分お
 交り勵みより起りし事あるは産物のみ自然物と詰

市通用之米為唐有之同安縣之米不色中一白得
得之不厭多羅之經要入寺修以上

己八月

高橋三平

蝦夷土地開闢成就之良圖とあるとあり

却て唐のわいのと梅妻の土地が重なる所とて温地なれ
ば別々日本入振るべきに任然なる地を越えたりと假令
押して任然するとも五穀を生みしる食物を之く因て
島母船子及はん村又温氣を更に温地を至るに唐人となる
べきと又温地より日本の農氏なる故地を耕作を
も種々に府植は付る所と傳あるとありといふも然り
後例あり依てなまありて開闢せしめ又彼土地
の廣大なるも能唐人の知る所とていふも其の意如何

まは往古より常に一く經歷せしものなりん
 兎角に毎事
 其の法より志して従ふくよきと雖も
 家塾なりといふと林の志はまことに天に
 休て夏中に風烈に決してなること
 庶庸人の心は
 利明債之を
 帝くはは我朝の
 えい日か人の
 育教孕ちて
 正を弘明し
 民とちるべきや

もの多きは熊少くもる事也之我朝の上古の風俗を寧ろ
 せしむ日ある風俗を辨明せしむ故に利明 壮年の以熊を
 次る直字より古郷をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 之熊をたらし古郷をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 創師として夷狄をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 いう熊をたらし古郷をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 耳家屋の造りもたらし古郷をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 之熊をたらし古郷をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 唐の如くも古郷をたらし百姓の長老にて或は奥郡の
 恒と耶と析棟海東のものなり只屋根をたらし百姓の

天井を一枚石に葺く上土をりいゝものにて石より
之をえらんと形同堆の如し土を掘る者石より
幅九尺許り又金屋をせし時又土石の性至密に
又更なり石恒る根を更に石の制物をえりくは自然
石より生れは石より石を以て造作せしもの也是をえ
我朝上りの風俗を考へ知くもこの也之を里人に
近々近村の如きなりといふ又家根石の如きをえり
里人告る曰近村近山にけ石の如き物決してなり定てを
方より持運く物なりといふ今いけ石を以耕種
の場になくとも近村近山にありありその下即結構

急事あり近々白川をくも在る多く古塚あり古山あり
又今にもて居たり又又悔き土を毎年好くまじり
漸く土を更なる時天字に上りてたきとなれ大
日輪の光輝も地にあり自然と地を耕す風あり
て冬中にあらはれて日かなるもの我朝の天氣に
なるなり又冬中の氣候も中華の如きに等しある下
北京順天府の北極地帯度七十五分にて中華及
韃靼に比し南の緯度の中央にありて氣候優るなり
いふ所なり依るも國並大清王城の土地に定められ
るものなり然るに地帯に限りて万邦に及んで

帳夷島を包巻せり此四方各國人民充滿して皆良國なり
なりより然るも千中央に帳夷諸島ありて是實國之人
氏の位なり龍きとありて不測の妙法なり依て近年
魯新無國の命ありてオホツカカムサスカの府有るを以て
帳夷の諸島へ法令を傳へ土人を誘育せしめて開業を
なせり此よりカキツカ國より連属の諸島を控てクナリ島
小距りて大島斗凡十五島あり此島より近年魯新無國の府
教を傳へしめて其城を築き冬電の制作せしめり此島
の貢税一多の俣ねを以てを以てムスクハ送るといへり既に諸島の
惣名を改名してサントウロヒスと号し然りといへり此島は

いかんが國までも元來日本國の屬島とせしめられし地なり
と雖も一回今に云々しはいつてある事なりヨロシヤ國人等
小多くいつてくふに其城を築き流氷も魯新無國より送
くるといへり近年よりクナリ島近大西洋の商船渡海
して交易をなせり此説ありて實を以てし
又松本が西帳夷陸地を控て海邊に距りソフヤといふあり
けり此は凡十島を隔てカラト島ありけり此島大島也松本
所在の島よりハ隔れて大島也といふは島を日本に西真帳夷
と云ふ極出地凡四十五度なり依て百果百穀豊饒の國なり
と云ふ或は并々集るれぬ故に河のいさみのに往たり

日本の商船は海へ出て来るせぬ土地なり唯山丹は引の金湯
なるより一洞の港なり金とて交易するといふ之を以て
して周囲の海より来る貨物も皆海に墮落の事なる此の良
地を皆至る官の通失なりと英國の如くは海に墮落の事
の日本國の權威を以て威威を布くに於ていかに此の土人
伏せし日本のはじめをさすべしなれい魯海雲の十島の
山丹のカラフト島西の海邊に採石を建てる日本國の境界
ありて要害堅固なるなり何れも事務の甚きにして
人君の多量の難事なりといはるる松本所長の如くとい
カラフト島のおもむき日本國の度よりいふといふ如く

土地の大國を定めて據りて大切なる國民を僅の少なりと一命
を以て命するもいふなり日本國の新教國新教の如く
もの格ありて外死刑を停止せしめ船事と陸地の庶民を
制するにあらざるなり船事國の國を成すては必ずしも
を敵へべきなり是れ船の出に因りて船の事なり日本國を
持するに依りて船の事なりと知るなり日本國は年々満
ちて律令を以て國を治るなり又又船の事なり日本國
は國の制なるは法律なり又又船の事なり日本國は
諸島を國の人氏増殖せしむるなり第一諸島を日本國
送りしは船の事なり日本國は年々満ちて船の事なり
日本國は年々満ちて船の事なり日本國は年々満ちて船の事なり

即ち渠よりいへば便利捷徑又は下流より上流の工
地の凡ゆるを基として日本の凡ゆるを削るなり耕種
位は別々なり水はのちなり便利捷徑又は東より西
昔耕種は東より西なり日よ水は西より東なり又削るは
くちよりくちより二事を用ひて地をのりあつたなり
馬車を結んで座山の急峻を轉らるるは極楽なり
又下流より上流なり日本より果ては月を遠く
人民増殖して國利不立自給と流るる多利羅は
人等多くなり或は山麓よりなり又下流より上流
惜むべきの意あり先哲もはく強之曰近於戦國の

送風に海平よりなるまき制なりといへり又外より所
の廣となり吹降中入空のまきなり空内より海より空
して空死なり毎年夥しき大なる雨を如斯の
ありまきなり強なりき制なり國車を東より西の
差おなく雨降るも奥に耕種は西より東より耕種は
東より西より耕種は西より東より耕種は東より西より
日よ水の降る事なり是は船乗りは夏中船乗り
くる雲や霧を北より南より吹く日よ水は雨となり雪
なり船乗りは南より北より吹く日よ水は雨となり雪
も降るは減少し大なる決して減少すべきは渠より

風急雨少事断る減るをいふなり

暖國の唐唐（狗中の世話）

夫暖國土産人相も少の食おまき草實の米穀を以て
重食をなす草實の杜若幹根を次の食料とす魚を鮓の
肉類を厨食より都て百里百穀の外食用にあするものと概
して是より畧すたゞ今我の性候より腹内を飼て保つ
すくねり暫し解散消滅して下府に傳へられぬ
あるは日三度の食もを喰ひ我朝の唐唐常は柔邦の
人は柔くされども日三度の食を喰ひても柔なりとも思
ふは又當る提議の我理を不渡にお極せんやうなり

六十を距る島西無改置也等の諸國を凡一日食或る二食を
多しといひ如くはれを第一に國を中より肉類油類
を産し一百里百穀を糧とす食料に從はるは子腹内を
飼りて保つる久く久く切す米穀を喰ひいふなり
肉類油類は活物の精神を便するものあれは活物の勇
猛の精神を養合めりて活物の思量を以て我思量を經ゆ
せしむる等一彼方大か我朝ははるれいさるに
よつて彼國の人物皆剛強勇猛なりと智恵はくなく
勇武と和睦して自己の業をを助めたるは速なり人情厚切
りて是より又軍軍に長せり又佛郎機國より海地を

制作して天下萬邦を來して重寶とせりす。て欧羅巴
の自鳴鐘也。其後測天量地球万国圖大洋通船御共
外種も東西の事益々明かしく、故に遠近あつては彼等の
切うて廣大なるものなり。以て人々の大智大勇、徳天下萬邦
の心を安んずるなり。けふは此の鐘の中、肉油を以て
長火を用ひ百果百穀を以て炊合となし、中といへば百穀を碎
粉となりて煉り、法魚油を以て煮え、て食用とす。是れを之りお
又南の方面にも、南極出地凡二十至るまで、二十三の法あり。天
下の二枚圓なれば、百果百穀を焼くこと、やがて冷め、過刻有、淫燂
も過刻あり。四時なりて千程あり。五穀永經の程なり。國あるべし。

を名けて中華とも又中土ともいふ一依之人物は漢朝より後唐
 懦弱な流れ法事法枝等矯りあるものあり鮮思唐人
 多くして東都に通國をもてなへ優良なるも其意切なる
 人其出さざる我朝も其内なる誅と矯り新あるものと

證ある世話

天明五乙巳年より翌丙午のあまね我意に家上徳川頼元氏より
 倭國へて之使する所の大畧は白根ある事此の海濱陸地徳の
 人々マツとてあつたり是を丑寅と云うは上凡そ二里許を隔て千口
 川島といふ所有是を丑寅と云うて凡そ七六里許隔てウル川島と
 云ふありは島へ赤妻大國を倭國へて歸すするに成るべき

羞へふありて大船制作の免許あり、王中法庫の創設
送しそ歎を保つるに永久に鑑戒人を何とまきまた
昂昂四方の海水も南流西流北流西流北流の流れは
海に東に流る東海に南に流る南海に西に流る西海に
て日本の流る大い流る種々の異説を述べて自説を
とりては皆偽に杜撰多く信用するに法後大抵天地の
呼吸なりといふ如きもの我報に漫りて庶人を迷
しぬ潮汐の干満及烈風の起源の事いふに法庫の運送
は係るものなりて人命をとりての大本なり、法庫の事あり
ありきなり
詳に予著の遺物
記傳にありたり

此書と云ふ三帝の利明出づるなりき、予著の遺物
國家統編の大案なりて大い取らるるものなり、
今その無用の條二を去る、法庫の事あり
撰録するものなり

西境各處○大姓○人○土○海○山○水○
其○中○有○山○川○路○道○此○處○有○水○草○木○之○

